

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名 平野区

学 校 名 喜連北小学校

学校長名 廣岡 浩

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・喜連北小学校では、第6学年 60名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数ともに、全国・大阪府平均を大きく下回っている。国語で9.2ポイント、算数は12.5ポイントの差があり、深刻に受け止めている。学力への自信のなさがそのまま自己肯定感・自己有用感にもつながっているのか、該当するアンケート項目の肯定的な回答数値も低い。

しかし、学校や友達関係への不安や拒否感はなく、「学校に行くのは楽しい」と回答する児童も多い。特に特筆すべき点は、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」との質問に最も肯定的に回答した児童の割合は全校平均を5ポイント近くも上回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕記述式回答問題は、大きく全国平均を下回っている。自分の考えをまとめることに課題がある。そのため、無回答率も高い。しかし、漢字など基礎基本の問題に対しては、粘り強く回答しようとする姿勢がみられ、無回答率も低い。

〔算数〕問題領域・問題形式のどちらから見ても全体的に正答率が低い。全体的な底上げが必要であることわかる。選択問題はできるだけ回答しようという姿勢がみられ無回答率も低い。が、短答式・記述式になると無回答率が上がる。

国語・算数ともに全国平均を下回っているが、特に算数において大きく溝が開いている。これは以前からの本校の課題である。3年生から取り組んでいる習熟度別・少人数授業も算数科を中心に取り組んでいる。また、学力向上支援事業の一環として「学びコラボレーター」も配置されさらに実効性のある授業を進められるよう取り組んでいる。

質問紙調査より

「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的回答が71.2P(全国83.5P)、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」に対して、「よくある」との回答が30.5P(全国49.9P)であった。

このことから本校児童は自己肯定感や自己有用感が低く、自分に自信が持てていないことがわかる。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的回答が89.9P(全国85.3P)、「国語の勉強は好きですか、大切だと思いますか」に対して、肯定的回答が高い。

このことから学習意欲もあり、学習の意義も感じていることがわかる。

## 今後の取組(アクションプラン)

児童に学習意欲はあるが自分に自信が持てない理由として、低学力も関係していると思われる。結果からみて、本校児童は基礎・基本の知識・理解の獲得も十分ではない。思考力・判断力・表現力を身に着けるためにも基本的な知識は必要である。このことから、基礎基本を大切にしながら、本校が今年度進めている社会科を中心とした話し合い活動を他教科でも積極的に取り入れていく。各教科で協働的な学びを充実させ、さらに深い学びの獲得につなげていく。

そうした確かな学力の育成を進める中で、教師ももっと意識的に児童一人ひとりの良いところを言葉にして褒めていく。そうすることで児童が自分に自信を持ち、自己有用感・自己肯定感を高められるように取り組みを進めていく。



# 【 全体の概要 】

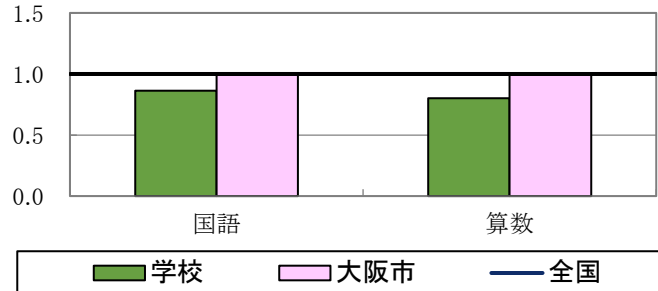
## 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	58	50
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

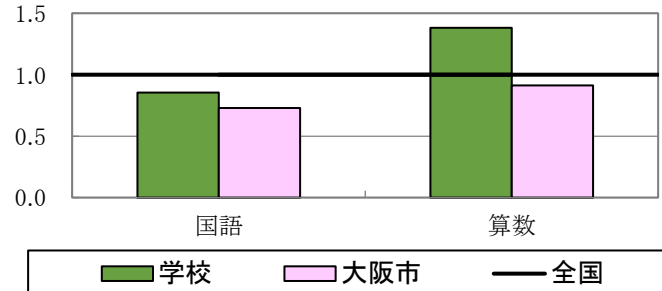
## 平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	4.1	4.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



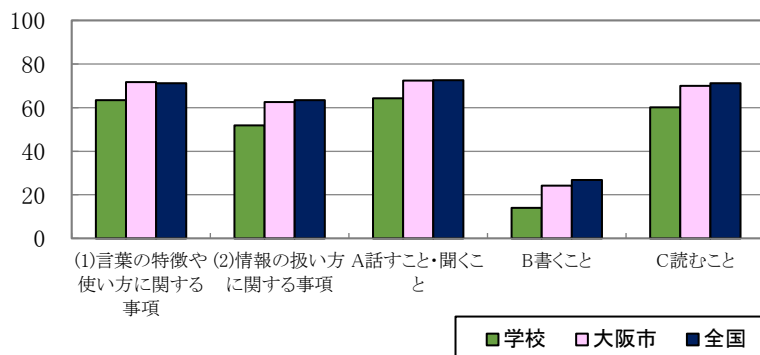
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	63.5	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	51.8	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	64.3	72.4	72.6
B 書くこと	1	14.0	24.2	26.7
C 読むこと	3	60.2	69.9	71.2

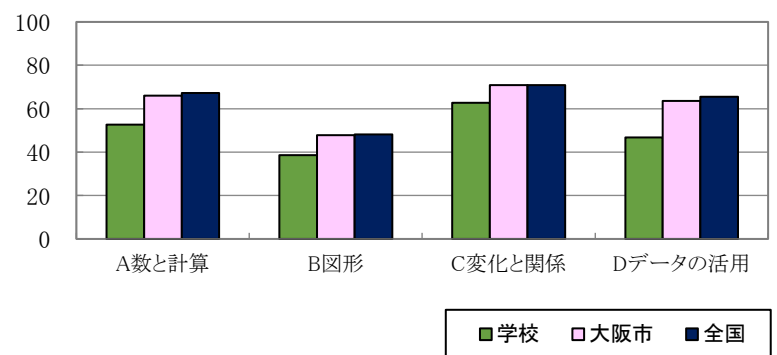
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	52.6	66.1	67.3
B 図形	4	38.6	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	62.7	70.8	70.9
D データの活用	3	46.8	63.6	65.5

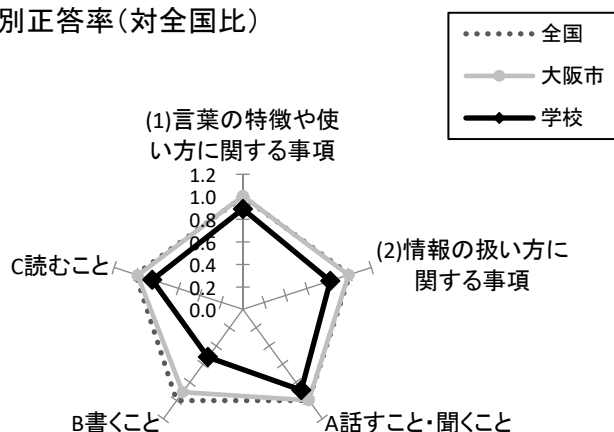
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



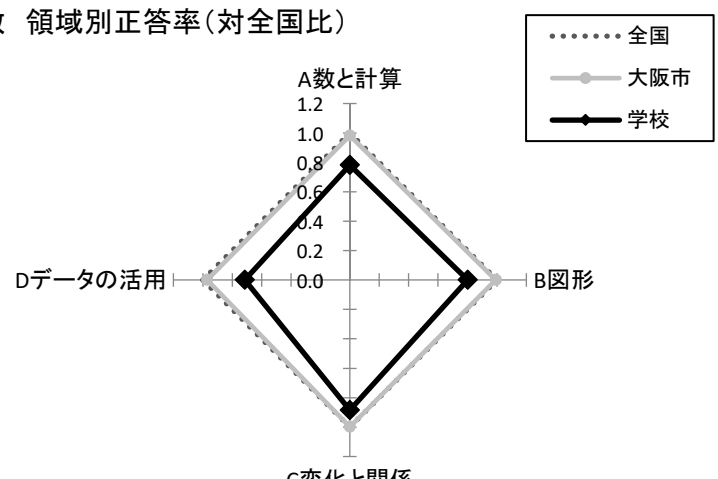
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)





# 児童質問紙より

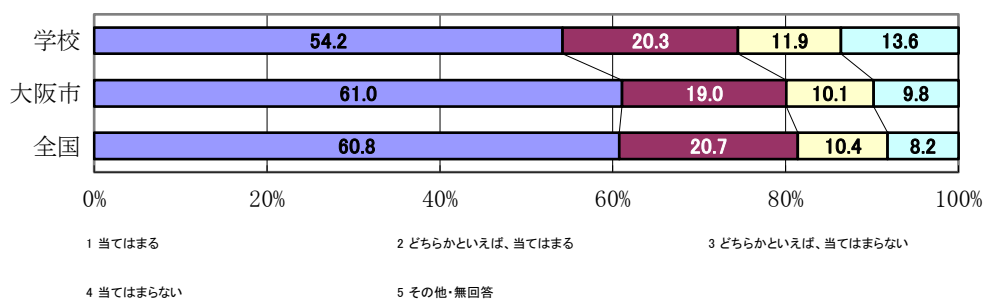
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

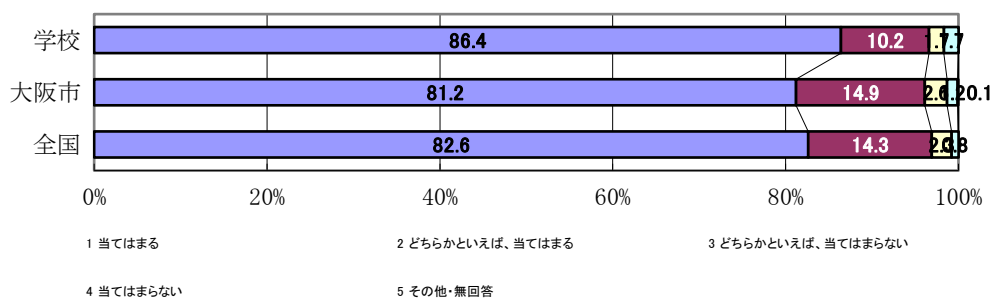
7

将来の夢や目標を持っている



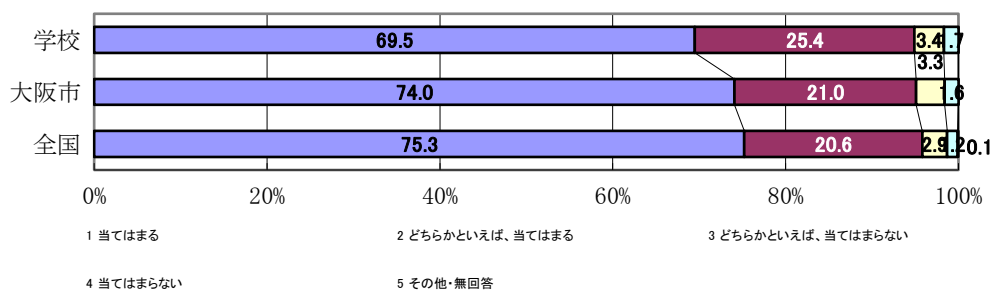
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



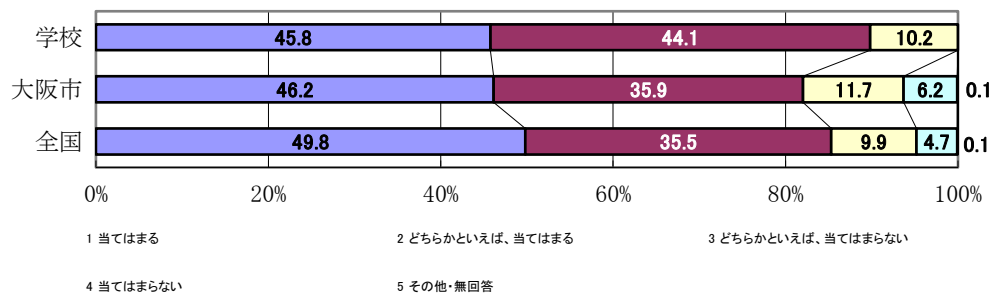
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



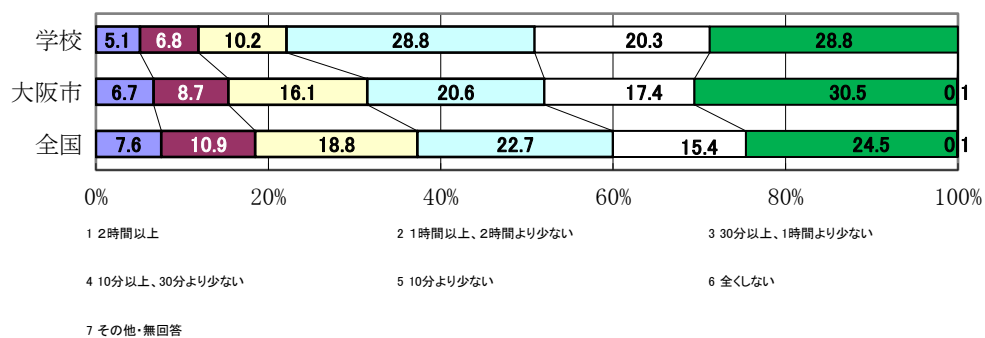
12

学校に行くのは楽しいと思う



20

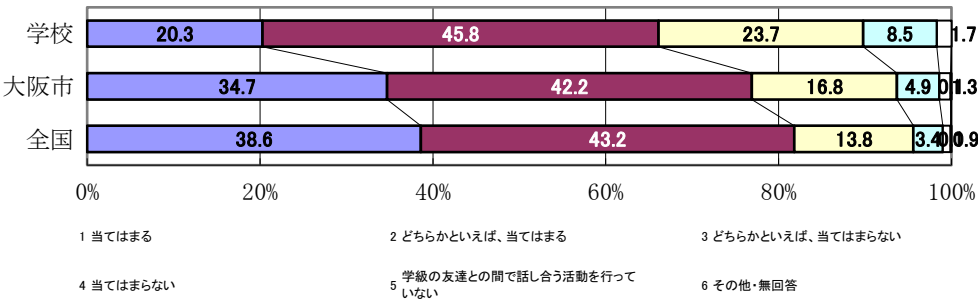
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）

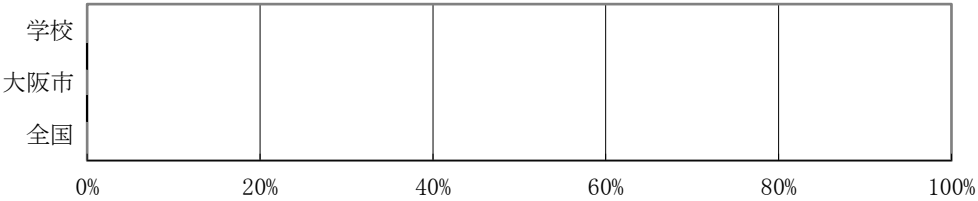


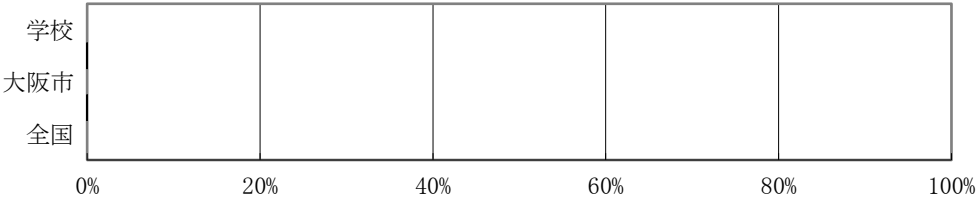
児童質問紙より

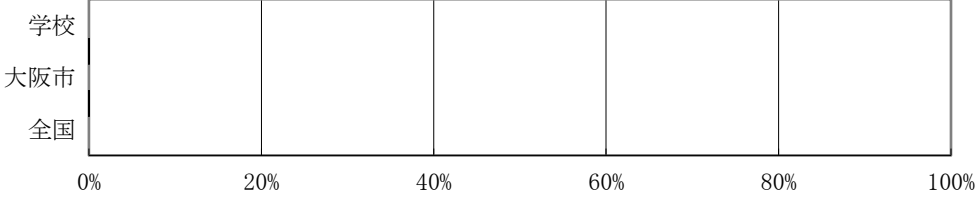


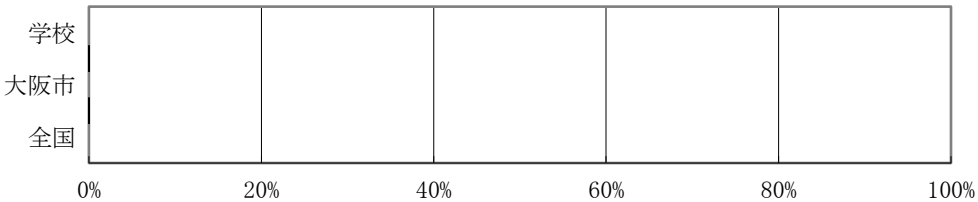
質問番号
質問事項
36
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



学校質問紙より

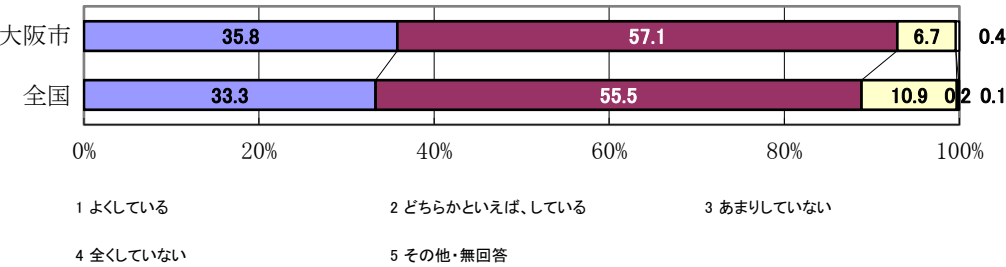
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号  
質問事項

23

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている

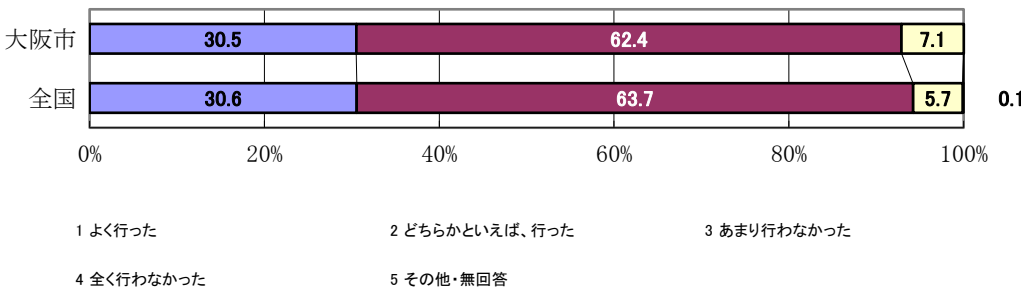
学校 「よくしている」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している

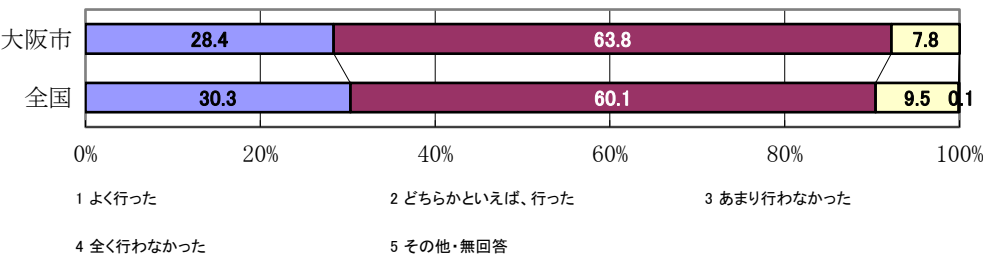
学校 「よく行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

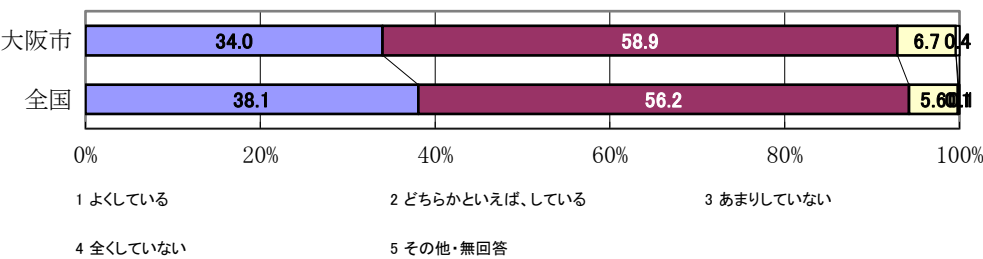
学校 「よく行った」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている

学校 「よくしている」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っている

学校 「よくしている」を選択

